

オンガクイチエンのジダイ

エイゾウ

はじめに

このホンでよんサツメとなる。イチネンイツサクで、ニセンジュウゴネンからよんサクメとなる。サンサクメからは、マンネンヒツでかいている。コウキユウブランドものではないが、まあきにいつている。インクもピンでヨウイしている。ほぼサンサクでふたつつかいきるようだ。パソコンにチヨクセツうってしまえば、というかんがえかたもあるが、わたしはこれできにいつている。このやりかたはしばらくくずさないでつづけたい。

ニセンジュウななネンジュウニガツふつか

イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかというところ、ピョウドウすぎたとき。グタイテキには、はたらかないでキュウリヨウをもらうひとにあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなつたからだという。たしかに、あまりはたらかないひとに、ケイザイをあわせると、とんでもないことになる。これは、どこかのくにのケイザイセイサクにしている。そうだ、「ザンギョウ」をキセイしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらかすぎでしんどしまつたり、もえつきてしまつたりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらかさがりはたらかなくなつたら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしようがないとおもう。

ニ

キュウジユウネンダイゼンハンまでの「バブルケイザイ」は、チカ（トチのカカク）がた

かくなつたというインシヨウがあるが、イツポウ、「モノ」がやすくなつたというメンがある。それはエンだがすすみ、ユニユウヒンがやすくなつたからだ。ケイサンができるひとは、ますますあがるであらうトチをあずけて、おかねをかりて、やすくなつたユニユウヒンをかえbaumうかるとかんがえるだろう。それでどうシユウエキをあげるかはしらないが、たかいカクのもので、ひくいカカクのをかえばニバイおいしい。ただそれがつづかなかつたら、「フリオウサイケン」なんだいいでした。ようするに、トチのカカクがさがつてあずかっているところはソンがたのである。

しかし、エンだかはつづいた。だから、ユニユウヒンをかえば、おなじキンガクをだしてのセイカツがゆたかになつた。イゼンだったら、ヒヤクエンでは、カジュウサンジュツパーセントのオレンジ（みかん）ジュースをのむのがせいぜいだったが（わかいひとは、カジュウサンジュツパーセントのジュースをしらないかもしれない）、ヒヤクパーセントのものがのめるようになった（「アメリカ」ガツシユウコクのひとつのドリヨクがおおきい）。モチロンこれはユニユウものだったりするから、コクナイケイザイのカイゼンにはならない（しいれてうるシヨウバイはできるが）。しかしながら、そういうセンタクもできるよになつたというのが「バブルケイザイ」ゴである。だからユニユウものばかりでセイカツしていたら、

かなりシシュツをへらしたセイカツができたことだろう。

しかし、コンゴもそれがつづくとはかぎらない。ユニウウものがたかくなることもあるのだ。コクナイケイザイのモンダイではないというテンでギャクバブルといおう。たとえば、セキユのねだんがあがれば、ユソウにかかるヒヨウがふえる。そうすると、モノのねだんがたかくなってしまふのである。エンやすにふれてもそうだろう。ユニウウカカクがたかくなってしまう。だからそういうこともあろうとおもっておくことは、ダイジかとおもう。

サン

ジョセイのシャカイシンシュツという。これは「シャカイ」に「シンシュツ」していなくなった「ジョセイ」がおおかつたからそういうのだろう。いってみれば「ダンセイチュウシン」テキだったと。しかし、ダンセイの「カジシンシュツ」とはあまりいわない。ダンセイがカジをするのはめずらしかつただろうけど、まあそういわない。おとこのメイヨにかかわるから、そういうことはいわないのかもしれない。ただそのブン、おとこがカジをするジカンがへってしまふようなきがする。そうすると、ジョセイがつよくなり、ダンセイはいえでのい

バシヨをうしなわないか。ひどいいいかたがあつたはずだ。「おおきなハイキブツ」といったいいかたである。そういうのをよりつよめることはないとおもう。しつかりカジをするダンセイは、ダンジョビヨウドウテキにうまくやるのだろう。

よん

エーからビーにすすむのに、イチビヨウカにかれば、イチビヨウカにかつたという。くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキユウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくつたようだ。

ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットエンジンリヨウである。それはどうシヨウヒされるか。おおきいものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブツシツをつくれば、ひかりよりはやくイドウ

できるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキユウジヨウのリヨウだけでも、ジヨウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

ゴ

わたしがまえにかいたホン『よろこぶゲンシジン』に、わたしがかんがえたジカンリヨウ（タイムトラベル）のゲンリをかいた（●『よろこぶゲンシジン』イカ、『よ』、ニジユウイチ）。ゲンリだけでなく、セツケイもカンタンだが、セツチがむずかしい。コンカイはそのカイゼンバンについてかく。

カンタンにいえば、イチネンマエをみるために、ハンコウネンさきに（オウフクでイチネン）かがみをおくのでなく、チキユウジヨウにかがみをおくのだ。そのかがみは、イチネンまえのひかりがみえるように、タイリヨウのかがみによるハンシャをくりかえして、イチネンブンドウするようにハイチする。これでイチネンまえがみえるわけだ。ただ、カコのひかりとゲンダイのひかりでコンランしないように、カコのひかりは、しろくろにするなどのシ

ヨリをしたホウがいいとおもう。

ロク

なぜモノがいのちへとなつていったのか。「シンカ」みたいなはなしである。なにかリユウというかがあつたのだろう。かりにそれを「いのちシ」ということにする。モノにいのちシがくわわるといのちになるということだ。いのちシとはなにか。ひとつかんがえられるのが、キヨウギヨウである。モノがそれぞれ、わたしはわたしといつていたのではいのちはできない。しかし、キヨウリヨクしてブンギヨウするようになれば、カガクシヨリなどもやりやすくなる。

どうしてキヨウギヨウするようになったのかはわからないが、ダイジなヨウソだろう。レ―ニンによるロシアカクメイは、ケイザイテキにはシツパイしたかもしれないが、セイブツガクテキにはただしかつたのだとおもう。キヨウリヨクするのはセイメイのキホンであろうから。キヨウリヨクをするままとまりのおおきさが、わるかつたのかもしれない。

なな

サイキン、わたしはあまりもちをたべていない。シヨウテンでうられていたいそべまきをみるまでは、たべていないことにすらきづかなかった。シヨウガツに、ちいさながみもちはヨウイするし、ぞうにもたべる。しかし、フダンはたべていない。もちをつくのはひとサギヨウだが、そういうことをしなくても、きりもちがうられている。いいしごとだとおもう。

ハチ

ゼンチヨで、ジカンとはエネルギーわるシツリヨウといった(●『よ』、ニジュウハチ)もつとタンジュンにえば、エネルギーわるシツリヨウがコウゾクキヨリである。それをセイリするとシツリヨウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかればシツリヨウはだせるだろうが、それでだせるのは、チキュウジヨウでのおもさである。つきでそのはかりをつかつてはかれば、スウジがかわってくる。

シツリヨウはエネルギーわるジカンである。エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ(ジ

リキでうごけないといえよいだらう。)ならばシツリヨウもレイになる。これはどういふことか、あなたのいへのジシヨはジリキでうごけないから、シツリヨウがレイということになる。おもさはあるじやないかだが、ウチュウにおいておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないことだらう(コウセイからのうずまきリヨク「インリヨク、●『アルクカラ カンガエル』、イカ、『ア』、ヒヤクロクジュウサン、ニヒヤクサンジュウ、『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』、イカ、『む』、ハチジュウハチ、『よ』ヒヤクハチジュウサン」でひっぱられるとおもうが)。しかし、チキユウがうごいているために(このレイでいえばエンジンだ。)ジカンがレイではない。そのためにシツリヨウがあるとなる。おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリヨウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジョウになる(たとえば、チキユウジョウであしをつかてうごくだらう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。)そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリヨウがレイイジョウになる。だから、ラシボウないかたをすると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモーティブ(うごき)をはかつて、シツリヨウをはかつてもしセイタイかどうかはソクテイでき

るのである。

わたしがギロンする「タイミック(●『よ』ニジュウハチ)」はジカン(テイ)イコールテイイチワルテイシー(タイミック)のテイシーである。つまり、ジカンにまつわるシツリヨウ(イドウにかんするシツリヨウ。たとえば、つきのインリヨクなど。)をわりだせば、ゼツタイテキナジカン(イドウのイツテイセイ「キヨリ」)がはじきだせるといふものだ。タンジュンにいえば、ウチュウヒヨウジュンジができるといふわけだ。

ただ、ジカンイコールゼツタイジカン。わるインリヨクのシキはインリヨクがレイになると、レイになってしまふ。そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジョウケンはないとおもわれる(ヨダンだが、たとえばみつつのクウセイのまんなかに、ハイチされるなにかがあつたばあいに、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ)。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセイ(リサイクル)されたホウが(いまやるといふことでない。)いいとおもっている。で、そうかんがえる。

キユウ

エイゴでコフィンというと、かんおけである。それにあるシヨクリヨウをいれては「こんだ。それでコーヒーというようになったのか。いや、そうかもしれないが、そうだとすると「ミツユ」だろう（かんおけのなかはあらためられなかったのかもかもしれない）。コフアーというとはこである。ゴゲンはかわらないとおもうが、はこにつめてはこぶものといえ、コーヒーだったのだろう。ベツにコウチャをはこにいれてもよかつたのだろうが、コーヒーのホウがよかつたのだろう。ホントウかはわからないが。

ジユウ

エーアイがたまにワダイになる。シハンのキカイにもトウサイされたものがある。もっとすぐくなると、リヨウリのこんだてとか、むだづかいのガクを、ケイサンしてくれるのだろう。そういうエーアイとたたかうのがかしこいのであるか。あるコウコウセイ、ダイガクセイのチシキは、カキュウのエーアイにうちまかされてしまうだろう。キョウイクにゴヒヤクマンエンかけるのなら、エーアイをサンビヤクマンエンでかつたホウがやすいとなる。キョウイクはジヨセイキンでなりたつようなキョウソウができないギョウカイである。だから、

そういうエーアイとカカクキョウソウをしたら、キョウイクギョウカイがまけるのはめにみえている。まけるとはどういうことか。キョウイクギョウカイのあかじがふえるということだ。あかじをだすまいと、ねだんをあげるかもしれない。そうするとますますキョウイクギョウカイに おかねをはらうのが、ばかばかしくなってくる。そういうミライがみえたからか、わたしはコウコウにいかなくなった。エーアイとサバイバルゲームをするきはなかった。

どうすればいいか。エーアイをつくるホウにまわれれば、もうかるだろう。ニジユウネンまへはコンピューターがそうだった。コンピューターがリュウコウしていたときは、コンピューターをつくってあれば、もうかっただろう。テレビゲームでハンドウタイや、ガメンになっていたこともがおおかつたから、パソコンにもなじみやすかつただろう。いまは、リュウコウからセイジユクしていき、ハードウェアは、そうそうもうからなくなってきたようだ。しかし、パソコンをつかうひとはそんなにへっているわけではないだろう。ソフトウェアはまだまだもうかるかかもしれない。

エーアイはわりとあたらしいソフトウェアである。もし、チシキだけがヒツヨウとすれば、エーアイにかなうひとはそうそういないだろう。ニンゲンはどうすればいいか。うごけばいいのである。このブンのようにかくしごとは、やがてエーアイにうばわれるかもしれない(か

と、いつてぬきをしているわけではない。わたしジシンのユニークさでショウブしているつもりだ。)

しかし、ものをはこぶとかリヨウリをつくるのは、エーアイにはできない。ロボットがやりはじめるかもしれないが、そのところはキョウソウしてもいいかもしれない。リヨウリはつくってたべなきや ニンゲンがしんでしまうからだ。そういうキノテクなことでないから、エーアイはかるくみられている。しかし、ガッコウでまなんだことがチシキだしたら、ニユウシヤシケンでは、「おかえりください。うちにはエーアイがいますんで。」になつてしまふ。そういうわけで、チシキよりギジュツがダイジになつてゐるジダイなのだとおもう。エーアイとキョウソウするくらいなら、つぎにひかえているロボットとキョウソウするのがかしこいといえるかもしれない。

ジユウイチ

アインシユタインはテンサイといわれる。ゲンバクをつくりやがつて。なにがテンサイだ。ではあるが、セイヒンはつかいかたシダイである。(アメリカ)ガツシユウコクセイフのつか

いかたがモンダイだったのだろう。なんとなくおもうのが、アインシュタインはウチュウがみえていたのではないかという気がする。そして、アインシュタインもウチュウのイチブである。だからウチュウがわかるのであったのではないか。あとはそれをセツメイするだけである。そのセツメイはわからないひともおおいかもしれないが、それはアインシュタインのセツメイリヨクのモンダイだ。しかし、すくなくともゲンバクつくったのだから、そのつかいかたがわるかったにせよすごい。

ジュウニ

サイキンのウチュウシヨク（ウチュウでたべるごはん）はしらないが、パツクされたエキタイやコタイをチューブですうというシヨクジであるときいたことがある。それがかりにステーキだとしても、チューブにとおるテイドにきりわけられているのだろう。そうやってたべないとウチュウにたべかすがちらばるからだ。だからウチュウにいつておいしいものをつかえというのはむずかしかったかもしれない。しかし、ウチュウのシヨクジテーブルをつかえば、おいしいさらりヨウリがたべられるであろう。カイテンシキのテーブルといすの

セットである。ジツケンしてないので、おいしくたべられるかはわからないが。

ジユウサン

わたしたちのすんでいるあたりを「アジア」という。もともとチュウトウあたりにあったくをそうよんだために、それをカクダイしてつかっているようだ。しかし、コウゾウシユギシヤ（●『よ』イチ）はそれでもいいのかとおもう。なぜなら、そのガンソアジアは、シヨクミンチにされていたのだ（ゾッコクといったホウがいいかもしれない）。そんななまえをみとめてしまったから、ジユウゴセイキイコウのトウシユウ（レイのなまえはつかわないホウがいいだろうから、かりにトウシユウとしておく。）は、シヨクミンチにされてしまったといえるかもしれない。ことばの（こういういいかたはすきではないが）マリヨクというやつである。かといってトウシユウといっても、そうそうつうじるわけではないだろうが、ジブシたちのことはそういえるだろう。ゾッコクじゃしょうがない。

ジユウよん

ハチジュウネンダイからデンキセイヒンをキバンをチュウシンにつくるようになってきた。そのまえからあったかもしれないが、そういうものがふえてきた。ハチジュウネンダイのオーディオアンプのふたをあけると、てサギヨウでくみたてられていたことがわかる。ケールをハンダづけするのだ。しかしサイキンのものは、キバンをいくつかつなげただけというのをおおい。またキバンにはブヒンがおさまっているが、てサギヨウでくみこみがヨウイなほど、そのブヒンがおおきくない。ブヒンメーカーにつとめていたたちちも、パソコンのブヒンをみてカンシンしていた。だから、こまかくブヒンをコウカンしてシュウリするのはむずかしい。しかし、こわれていないキバンをチョウタツできればなおせてしまう。そういうわけで、フリオウヒンでもブヒンどりのやくにたったりする。そういうギジュツもダイジかとおもって、わたしはサイキンシュミでシュウリをはじめた。

ジュウゴ

あるしなものエーがあつたとする。エーのほかにエーダツシュもあるとする。エーダツシュだから、エーとはちがうか。それはなんともいえないが、ブツリテキにはまったくおなじ

ものというのはむずかしいから、やはりちがうといえそうだ。しかし、それだと、エーイコール エーダツシユ、エーダツシユイコール ビーだからエーイコール ビーといういいかたができなくなってしまう。つまり、エーもエーダツシユもビーもちがうということだ。

ロンリはヒヤクパーセントとか レイパーセントとかのものだから、ニジュツパーセントゴサがありますではこまってしまう。でもゲンジツはそんなものだからしょうがない。トウケイガクのようにゴパーセントゴサがあります。でいいとおもう。つまり、エーイコール ビーであるが、ニジュツパーセントのゴサがあると。ギャクからいえば、エーイコール ビーではないが、ハチジュツパーセントのゴサでまちがえたと。

シーさんいったデイは、コウテイされたり、ハンロンされたりするが、サンジュツパーセントまちがいだというようにスウチカすれば、ギロンもハクネツしないのでないか。

ジュウロク

まじめにしごとをしていると、わたしはやすみがほしくなる。ニクタイテキにというよりセイシンテキにである。そこで「どっかーん。」といってみたり。「なにが『どっかーん』だ。」

ではあるが。もつともそういうひとがイッテイスウいるから、おわらいゲイニンとかピエロがしごととしてセイリツする。みているひとがリラックスできるからだ。

これらはもはやサンギョウとしてセイリツしているメンがあるが、カイダン（こわいはずが面白いとおもうが）みたいなのもいいとおもう。いまだきおぼけとかいうと、おかしいひとのようにおもわれてしまうかもしれないが、それはいきすぎなのではとおもう。よなかにキシヤがはしっているようなおとがするので、みにいったら、たぬきがキカンシヤのまねをして、センロをはしっていたとかのはなしはおもしろいのである。そういうはなしは、むかしはホウフにあったのではないか。チホウによつていろいろあっただろう。ムリヤリゼンコクホウソウでトウイツすることはないのである。ショウセツだつてジツタイがなければ、「おぼけ」なんだから、そういうたのしみでいいとおもうのである。

ジユウシチ

てらでセイカツしているソウのことをボウズという。また、かみをかりあげていることもボウズという。そういうかみがたをボウズあたまという。どうもブツキョウのエイ

キヨウがつよかつたようで、ガツコウでもボウズあたまをもとめられることがあつたようだ。あつたようだというのは、わたしはボウズあたまにしたことがないからだ。しかし、チュウガツコウにはいるのがナンネンかはやければ、ボウズあたまにしたのだろう。それかそういうキソクがない、シリツガツコウにいったかだ。

なぜ、ボウズあたまにするのか。ガクセイはシユギヨウチュウみたいなものだからかもしれない。そんなかんがえがあつたか、ほかのなにかがあつたから、ガツコウにそういうキソクがあつたのだろう。しかし、かならずしもみんながブツキヨウトではない。だから、シユギヨウをキヨウセイするのはおかしいから、そういうのはなくなつてきたのだろう。ジハツテキにするボウズあたまのこもあまりみなくなつた。そういううつりかわりがニジュウゴネンほどまえにあつたのだろう。ひよつとしたら、ボウズあたまがソウシツされたニジュウネン（●『ア』ニヒヤクニジュウロク、『よ』ヒヤクヨンジュウニ、ヒヤクななジュウロク）だつたのかもしれない。

ジユウハチ

ものがタクサンあるホウがゆたかだろうか。タブン、そういうひとがおおいにちがいない。ゆたかなくらしとは、ものにかこまれたセイカツだど。しかし、わたしはサイキン、クウゲンをかんがえる（●『ア』ニヒヤクニジュウキュウ）。クウゲンとはわたしのゾウゴで、「からっぽ」というシゲンである。つまり、どこかにもがないホウがジュウともいえる。なにかものをおいてもよいし、おかなくてもよい。しかしそれはフドウサンである。ようするにあきちドウヨウだ。ケツキヨクはフドウサンがダイジなのではないかということだ（へやのイチブとしても）。

そういうわけで、わたしはフドウサンをうったわけではないが、かいもどしている。そうすると、ゆとりがでてくる。そうニホンジンのいえはせまいのだ。わたしのおやじもおふくろもヨケイなものはおかなかった。わたしはそうではなかったが、ものがふえるにつれ、どうもジブンがうごけるハンイがせばまってくるのにきづいた。だから、ものをかたづけるといいいかたもあるかとおもうが、フドウサンをかいもどすのである。かねもちのいえはタブンヨウユウがあるだろう。けっしてソウコのようににはなっていないとおもう。

ジュウキュウ

シヨウグンケとブシのカンケイを「ごオンとホウコウ」とおそわった。シヨウグンケとはかぎらない。なにかセワになつたらヘンレイをする。それはよくあることだとおもう。だが、わたしはリヨウシンからうけたなにかなどを、なかなかかえせるようになっていないようなきがする。そうしようとがんばるのではあるが、そのなにかするあいだにも、やつぱりセワになつてしまつたりする。しかし、わかいたときよりは、ホウコウができるようになってきた。それでもまだまだである。しっかりとめねばとおもう。それができればヘイワになるわけだから。

ニジユウ

わたしがだれかのかいたブンをよんでいて、「わたしにとってのセカイ」というところを、「セカイは」とリヤクしていつていることがあつてきになることがある。たとえば、「わたしにとってのセカイは、まっくらやみです。」というところを、「セカイはまっくらやみです。」ということだ。コウシヤのばあい、それはちがうとハンロンするだろう。「わたしにとって」がつくのなら、そうなのであるが、「わたしにとって」がつかないばあいは、イッパ

ンの「セカイ」のことをさすわけだから、そうじゃないとなる。「わたし」、「わたし」というとるさがるが、「わたし」をつけたホウがいいだろうとおもう。イチメンテキにはまぢがえではないが、ゼンブをさすわけでないということだ。

「わたし」をシヨウリヤクするつかいかたもある。エイゴの「サンキュー。」とかである。これは、だれからでもそういえるだろうから、あえてシユゴをつけていないのだとおもう。あえていうと、「ウイサンキュー。」であろう。だれもがカンシヤしていませんと。

わたしもわたしでジセツをいろいろいつているから、よんでおられるかたにしてみれば、おまえも「わたし」をぬいているといわれるかもしれない。ジツシヨウウされているものをのぞき、カセツをのべているくらいにおもつてゴヨウシヤいただきたい。

ニジユウイチ

コトシのシヨウガツにわたしは、ぞうにばかりをたべた。なぜかという、わたしがもちをつくつたからだ。セキニンをもつてたべたということだ。ケツしてまずくないフツウのもちだ。おふくろにいわせると、サイキンうられているもちは、もちごめだけではなく、ふつ

うのこめもまざっているらしい。だから、もちごめヒヤクパーセントだとおいしいという。わたしにはそのサがわからなかった。でも、もちをつくったことではにかシヨウガツカンがでた。いつもは、ぞうにがたべられるキュウジツというかんじだった。しかし、モンドイもある。それはわたしのつくるぞうにだけだと、エイヨウブソクなのである。さんがには、ねていることがおこった。ねるといふよりエイヨウブソクで、おとなしくしていたということだ。だから、よりよいシヨウガツをむかえるために、カテイのあじがくずれるが、ぞうにに、さかなでもいれようとおもっている。

ニジユウニ

わたしがチュウコウセイのところ、ほとんどジタクではベンキョウしなかった。テレビゲームをしたり、からだをうごかしてウインドウしたり、ガツキをひいたりした。テレビゲームというあそびは、いまのわたしにとってなにもなっていないが、あえていうなら、レキシにキョウミをもったことだ。カンレンボンもよんだ。もうイツテンは、ハンドウタイのハツテンのためになった(●『よ』ヒヤクナナジユウサン、ヒヤクハチジユウサン)。ウインドウはシ

ンタイのケンコウにつながっているし、ガツキはシユミになっている。

でも、サイキン、ベンキヨウなり、ケンキユウもしいシユミではないかとおもえる。ホンとヒツキグテイドにしか、おかねがかからないからだ。ホンはゴヒャクエンからかえるが、ガツキはナンジユウマンとする。やすくてもスウマンだ。だから、シヨミンにとつて、ベンキヨウはいいシユミだとおもうのである。それをおそわつたのは、いいシユウカクであった。

ニジユウサン

「サンドウイッチ」というのは、どうもギユウニクをはさんだりするようだが、ザンネンながらわたしはレンカバンのぶたのハムをはさんだようなものしかたべたことがない。タブンほんものはローストビーフなんかをはさむのだろう。わたしがたべたものでイチバンいいのがトンカツサンド。コンビニでもハムサンドなどがうられている。よくおもいだせば、サン、ヨンジユウネンまえのニホンのサンドウイッチは、チーズがイチマイはさんであるだけだったり、ハムがイチマイはさんであるだけだったりだとおぼえている。ホテルなどでチユウモンすれば、もっといいのがでてきただろうが、せいぜいそのテイドのものだった。ま

だそれはましなホウで、ツナのおぶらげや、タマゴ、そしてきゅうりだけというのがあった。タブン、かっぱまきのかんがえかたなんだろう。

そんなにはゆたかではなかったが、そういうのはきにしなかった。かっぱまきでも、かんぴようまきでもとにかくたべていた。わたしのリョウシンがセンチュウのケイケンがあるからシツソだった。わたしがショウチュウガクセイのところ、おふくろがつくってくれたベントウにモンクをいったことがあるが、いまかんがえると、よくできたベントウだったとおもう。おごるヘイケはひさしからずなのであるが、いまのようなちよつとゼイタクというのができなくなってしまうと、ちよつとかなしい。

ニジユウよん

なぜテンにめきれるといいいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである（と、わたしはかんがえる）。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまつたらどうなるか（ひかりもシザイである）。タイヨウはも

えなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもとのシゲンはおくに
いつてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらどうか。またシザイを
あつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。
またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンに
めされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするののだが）。
そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいの
である。

ニジュウゴ

ニンゲンがうごくとうどうなるか。そのひとからみたフウケイがかわるし、そのひとをみて
いるだれかがみるフウケイもかわる。そういういきものをドウブツという。うごけるのであ
る。そして、そのノウリヨクはシヨクリヨウをとるためにハッキされる。そうしないとゲン
シヤカイではしんでしまうであろう。そうやってニンゲンは、うごいてみえるえ（ここで
は「ドウシゾウ」とよぶ。）にしたしんだ。ゲンダイシヤカイになって、あまりうごかなくて

よくなつても、ニンゲンはうごくえをみたいのだろう。ドウシゾウでなくて、ドウガをハツメイした。そのひとがうごいていのではないが、うごいてみえるえである。

どうもそれは、(アメリカ)ガツシユウコクやニホンでニンキがあるらしい。ゲンシジンのときに、たべものをとるためにうごいていたから、コウフンするのもかもしれない。ナンマンネンとそうしてきたのだから、それをやめることはカンタンでない。キカイじかけで、うごいているとサツカクさせるのはどうかとおもうが、シンカしたニンゲンができたのだろうか。

ニジユウロク

シヨウガツにはニホンシユをかつてくる。シヨウガツくらいはとおもうからだ。いつもはよんゴウビンをかつてくるのだが、あまりそれではあじわえない。めでたくないというのもこまるので、コトシはイツシヨウビンのものを買ってきた。さすがにのみごたえがある。シヨウガツチュウめでたそうだ。

あるものにはわけがある。ベツにそれをセツメイするヒツヨウはないが、イツシヨウというタンイがあるのである。むかしからののだろうか。まあメイジのころからとしても、トウ

ジはコウツウがハツタツしていなかったのだろう。いまではちかくのショウテンですぐにかえるが、トウジはてにいれるのにケツコウあるいたんだろう。それなら、あるテイドまとめてかったホウがいい。それでイツシヨウなのではないか。つきにイツポンぐらいのんだのだろうか。わたしがニホンシユだけをのむとしたら そんなかんじだろう。ほかにウイスキーをのんでいる。ドがつよいのもほしくなるのだ。わたしのおやじは、よんリットルのシヨウチユウをのんでいた。なんとなくそれもわかってきた。わたしのばあいイツテンハチリットルのウイスキーだろうが。

ニジユウシチ

なぜニンゲンには はかがヒツヨウなのか。サイキンは「ウチユウソウ」とか「サンコツ」とかもあるときく。しかし、それはカソウしたあとのはなしだ。カソウしていないシタイをウチユウにもっていつてほうりだしたら、きもちがわるいとおこられそうだし、そこからへんにシタイをほうつてもやっぱりおこられるだろう。だからフツウは、つちにうめる。そうすると、やがてブンカイして、つぎのいのちにつながるのかもしれないが、いしのなかにうめるこ

ともある。これだとシタイをホゴすることになる。えらいひとだとシタイをなにかにたべられないようにするのがダイジなんだろう。どうもニホンでは、いしづくりのはかがふえたから、それだけえらいひとがふえたんだろう。どうえらいのかよくわからないが。

ニジユウハチ

わたしがダイガクにいつていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニューガクしたならともかく、おくれではいったので、シュミでガツコウにいつているとおもうようになった。だから、ジブンではらったホウがいいだろうと。それがあつたから、コウギはやすまずにうけた。セイセキはまあまあだつた。

しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになつた。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらつてといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンないチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかつたが、イチジシキで、チョクセンテキなスウシキで、それからのみこみ、ガクヒ

のブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ）「ガクヒのたまりぐあい」 イコール エーエックス（マイツキのキュウリヨウ）「ジキュウ かける キンムジカン」 マイナスビー（セイカツヒ）とたったぐあいである。

エーエックス（キュウリヨウ）がふえればすぐゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタツセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジュウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガツコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのばそうというのは、わたしのみがつてなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。

ケツカは、おかねはたまつたがシユクダイをやるジカンがなくなつてしまったので、これはソツギヨウできないとおもい、ジネンイコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチユウでジブンのみがつてさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなくなつた。いまなら、スウシキのヘンスウをイツコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジンセイ） イコール エーエックス（ジブンのドリヨク） プラス シーゼット（カイシャのギョウセキ） プラス デイエイチ（シジヨウのケイキ）

マイナス ビー（セイカツヒ）のようにである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

ニジュウキュウ

シヨウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげイコールコストたすリエキというやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかっているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイシヨウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリヨウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげようとおもったら、ジンケンヒ（ジュウギョウインのキュウリヨウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところでセイヒンをつくらしたりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシユギのシユダンといえるかもしれない。

ところでジュウゴセイキくらのヨーロッパでは、センキヨウシをカイガイにおくりだしはじめた。シンタイリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキを

ヨーロッパのくにはちからずくでシヨクミンチカしようとした。なぜシヨクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリヨウをやすくてにいたかつたからだろう。そうすればヨーロッパのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくのである。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。

どういうことかという、ヨーロッパでシユウキヨウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイッセンマンエンかかったとしよう。シユウキヨウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイッセンマンエンとなる。しかし、シヨクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブツカがやすいとカテイする）、ニヒヤクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハツピヤクマンエンのリエキ（そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい）、うりあげがすくなくとしても（たとえばヨンヒヤクマンエン）、ちいさなキングクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところに行くのだ。これをシユウキヨウのハウハウとよぶことにする。

シホンシユギのシユダンとシユウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすくつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキユウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

サンジユウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシヤのタイリツがおわったんだって。」といえるひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハツタツしている。なにかのセイヒンのコウジョウでも、それらをつかったりするだろう。それがキユウゲキにすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシヤがいらなくなるのである。「いらぬ」とはどういうことか。「やとわぬい」、「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサンするから、ニンゲンのロウドウシヤはいらぬということである。

シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシヤは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシヤにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかったのではないか。それでまあまあやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシヤのタイリツはおわりである。リヨウシヤともジツサイにはつきあわないわけであるから。

しかし、シホンカがノウチをタクサンかったばあい、ロウドウシヤは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるといわけだ。なんのことはない、またシヨウエンセイになるといっただけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとどうなるか。ガツシユウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。

ナンブではドレイをつかったノウギョウをしていて、ホクブではコウギョウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、シヨウエンのロウドウシヤが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イツボウ、コウギョウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともあるだろう。こういうシャカイをナンボクタイセイといっておこう。

ただ、ガツシユウコクのばあいには、ホクブはコウギョウセイサンをしていたからシキン

はあつた。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノウギョウもコウギョウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたかうことはできるが、シヨウエンがわがグンとなかよくしていたら、シヨウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキユウジソクやコウギョウセイサンをしていけば、まあモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシヤのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

サンジユウイチ

ロウドウシヤのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシヤならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシヤドウシのキュウリヨウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきにあった(●ホンブン、イカ、ヒヨウキなし、サンジユウ)エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリヨウがあがるといつても、すなおによるこべない。タンジユンにえば、ニンゲンのロウドウシヤにはらうキュウリヨウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシヤは、リストラのタイ

シヨウになる。

ニホンジンよりナンポウのほうのくにのひとにつくらせるとかを いままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つくるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

サンジュウニ

ゲキやシヨウセツには、ながれというかキヤクホンがある。イチバンしられているそれをみじかくしたものは、「キシヨウテンケツ」だろう。「シコウサクゴ」では「ゴ」がサイゴだから、ハッピーエンドとはいえない。だから「シコウカイゼン」などにしたホウがよいとおもう。「ゼン」がサイゴならいいおわりかただろう。そのようにおもうひとはおおいのではないか。しかし、そうやっていいことばをつかおうとするあまり、あることをイシキしないようにしている。それは「シ」である。なかなかしんでおわるキヤクホンはすくない。

しかし、それはシンジツである。しないひとはいないだろうから。そうやって、イシキからとおぎけるあまり、たまにそれをいうひとがでてくるだろう。それがハチジュウ、キウジュウネンダイのオンガクにある。「シのロック」とでもいうといいロックだ。それはイッパンテキナひとからは、たかいヒョウカはえられない。しかし、すきなひとはいるのである。そうやって「シンジツ」をみることもよいのだろう。

サンジュウサン

「コウコウ、ダイガクにはいかなくてもよいのでは。」というテンについてのべた(●)ジュウ)。それはなぜか。そこでおぼえるチシキはそこらへんにあるし、ヒツヨウなときにネットワークからよびだすことができるからだ。タンジュンにいうと、「チシキ」へのアクセスカクがやすくなったのだ。それはネットワークカンキョウがととのったことによる。パソコン(ネットワーク)が「チシキ」へのアクセスカクをやすくしたわけだ。もつというもはや、ただとおもわれているかもしれない。それなら、ガッコウにたかいかねをはらうことはない(しかし、ケンキュウシヨクなどチシキでシヨウブするしごとだったら、ガッコウに

いくのがいいだろう。)

「チシキ」へのアクセスカクがさがったのだから、ガッコウのガクヒもやすくなるのがシジョウのジヨウシキである。ゲンにダイガクなどはテイインわれがでているときく。しかし、どうもゼイキンをトウニユウするようだから、やすくはならないというか、ガッコウがオンゾンされる。まあ、(キョウシ、キョウジュにタイする)シツギョウタイサクもあるからだろうが、ガッコウがシンポするのかうたがってしまふ。こんなだから、コクサイキョウソウリヨクのあるダイガクがでてこないのだろう。

サンジュウよん

パソコン(とネットワーク)が「チシキ」へのアクセスカクをさげた(●サンジュウサシ)。いまはもつとそれがすすんでいる。それはそうだ。パソコンがフキユウして、ニ、サンジュウネンたつからだ。コンドは「エーアイ」によって、ズノウロウドウがやすくなるだろう。ズノウロウドウという、キユウジュウネンダイから、ニホンキギョウがジュウシしていたブンヤだ。セツケイがニホンでおこなわれて、セイゾウがカイガイというセイヒンのつ

くりかたが、そのレイである。ほかには、ホンヤクとかキヤクホンとかケイリとかそういうシヨクシユである。ガツコウのキヨウシもそうかもしれない。そういったシヨクシユのロウドウのカカクがさがる（さがっている）だろう。カンタンにいうと、エーアイがもちいられて、ひとはベツのしごとをするようになるということだ。それもまたゼイキンをトウニユウしてロウドウシヤをまもるのがキヨウミぶかい。

サンジュウゴ

「エーアイによって、ズノウロウドウがやすくなる（●サンジュウよん）。」のつぎはなにか。ロボットのリヨウである。これはいますすんでいて、タンジュンなうごきのニクタイロウドウはつぎつぎとおきかえられるであろう。たとえばシヨウテンのハンバイイン、インシヨクテンのテンイン、タクシーのウンテンシユ、セイソウインなどがロボットにおきかえられる。やっぱり、これでシツギヨウするひとをどうささえるのが、キヨウミぶかいところであるが、さきのふたつのおきかえ（コンピユーター、エーアイ）をふくめてまだニンゲンのロウドウシヤが、はたらきつづけられるはたらきかたがある。

それはショックになることである。つまり、トクテイのブンヤで、コンピュータ、エーアイ、ロボットをタクエツするギジュツをもっていけば、はたらきつづけられるということだ。ジンリキでなにかをするひとをアーティストという。ニホンでアーティストというと、サツカ、ゲイノウジンであるが、アート（てサギョウ）をさきのみつつにまけないスイジュンまでたかめられれば、シツギョウしない。しかし、ジブンがへたなアーティストだとおもうのなら、いまからジュンビしておいたホウがいいかもしれない。エーアイやロボットに申しえられるくらいじゃないときびしいだろう。

サンジュウロク

コンピュータ、エーアイ、ロボットのハツタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり（●ジュウ）、ズノウロウドウのカカクがさがり（●サンジュウよん）、ニクタイロウドウのカカクがさがる（●サンジュウ、サンジュウイチ、サンジュウゴ）。そうすると、たいしたしことをしないぶらさがりロウドウシヤはいらなくなってくる。

これまでは、シヤカイシュギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれも

おわりだろう。ひとつでも、それらみつつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとつてやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシヤにおきかえられたが、いまではそのみつつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシユウヤクテキなしごとをハツテントジヨウコクなみのチンギンでやるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというホウリツテキしぼりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないより、ましだとおもうのである。

サンジユウなな

なんのためにダイガクにいくか。わたしはチュウコウセイのころ、サラリーマンになるためだとおもっていた。コウコウ、ダイガクとすすんでシユウシヨクすると。でもそうではなかったとおもう。シケンはずウゴクのギョウセイカンをサイヨウするためのものだとときく。つまり、イチギテキにいうと、コツカコウムインになるために、ダイガクへいくのだ。さらにほかに、イシヤ、ベンゴシなどコツカシケンをうけるためにいくのだろう。トウジのわたしはそういうカンカクがなかったので、トチュウでやめてしまった。しかし、いまごろに

なつて、シュミで、よなよなガイコクゴのブンをヤクしたりしている。ラジオをききながらそれをするのもいいものだとおもう。

サンジユウハチ

ピアノ（フォルテ「●『よ』ジユウ」）は、ニホンではショウワのジダイにフキユウしたらしい。わたしのしるかぎりでも、いえにピアノがあることはそこそこいた。しかし、テレビとおなじように、イツカにイチダイ、ヒトリイチダイになってしまふと、そのセイヒンの力カクがさがるのである。タンジュンにキョウキユウがおおいというリユウだ。だから、ニジユウマンエンだしてかっただとしても、てばなすときには、イチマンエンほどにしかならないということがかんがえられる。ピアノはまだまだフキユウしきっていないようだから、そんなことはないとおもうが、デンシキーボードとかエレキギターなんかは、ホントウにやすくチユウコシジョウでバイバイされている。

キユウジユウネンダイのはじめに、わたしはギターをおおうとコウコクをみていた。やすくてもサンマンエンはしたとおもう。しかし、いまはチュウコで、ゴセンエンでかえるのだ。

むかしはチュウコヤがそんなになかったから、チュウコのをさがすのはタイヘンだった。しかし、いまはチュウコシジョウがある。やすくたのしめるわけだ。シイデイもそうだ。あまりにフキユウしてしまったために、チュウコカカクがひくい。そういうホウがキヤクはマシクだが、セイゾウするホウにとつては、シユツカがふえないというモンダイになる。それでもセイゾウをすすめると、チュウコセイヒンとのカカクキョウソウになる。わたしなんかは、おさがりのふくをきていたりしたから、チュウコだといったって、あまりきにしなかつたりする。

そのばあい、セイヒンハンバイのサイショウテンカをするといいかもしれない。タンジユンには、ブランドカである。ゴマンエンくらいのギターをセイゾウしていたら、そのカカクタイのものをダイニのブランドにして、メインはジユウマンエンくらいでテンカイするのだ。テイカカクでキョウソウすると、ますますチュウコカカクがさがってしまうだろうから。

サンジユウキユウ

ウチュウはどんなかたちか。わたしがガクセイのところ、とつがたのズをみたことがある。

ひらべつたいが、チュウシンフキンはでつぱっている えである。しかしホントウにそうなのか。わたしはいまのところ、たしかめようもないが、キュウケイをカテイしている（カツテカガクをやっています）。なにかちからがかからないと、ヘンペイにはならないからだ。えにかいたひと、もしくははそのかたちをテイショウしたひとは、なにかちからがかかっているとカテイしているのだろう。ジツサイにそうなっているかはともかく、すくなくとも、これらのシンリコウゾウのなかではそうなのだろう。イッタイどんなちからがかかっているのだろうか。

よんジュウ

サイキン、あまりフケイキだということをいわない。ホントウかどうかはともかく、シツギヨウもへっているらしい。しかし、イッポウで、セイシャインのロウドウジカンのタンシユクをスイショウしている。ケイキがいいなら、ロウドウジカンをへらせないだろう。ロウドウジカンがへれば、セイサンリヨウもへるが、キュウリヨウもへる。ジツはフキヨウなのではないか。シユヨウなホウドウでは、あまりセイケンヒハンはしないので、そういうこと

もいわないのかもしれない。しごとがへって、キュウリヨウがさがってどうするのだろう。おかねをつかわないシユミがはやるんだろうか。

よんジュウイチ

おかねをタクサンもちたいというのは、よくおもわれることかもしれない。おかねがあると、いろいろジュウにできるとおもわれているだろう。でもはたしてそうなのか。たからくじでロクジュウオクエンあたったとする。するとどうなるか。おもてだつてホウドウはされないが、うわさをききつけて、キフをしてくださいとか、いろいろなひとからいわれそうだ。

それはうるさいので、そういうひとがたずねてこないところにひっこすだろう。で、またかねめあてのハンザイにもまきこまれないようにしなければならぬ。それでケイビガイシヤにケイビをイライしたりするだろう。シヨミンテキなみせにもいきづらくなるかもしれない。そうかんがえると、かねをもつとフジュウになるといえないか。それなら、あまりかねをもたないホウがジュウだろう。もつともかねをもたないひとがジュウで、もつともかねもちがフジュウだろうけど、サラリーマンぐらいがちょうどいいのかもしれない。ジュウでもな

く、フジユウでもなく。

よんジュウニ

シホンカとロウドウシヤのタイリツというテーマがある(●サンジュウ)。タブンそのリョウシヤともしつかりしごとをするのがよいとおもうが、それによつておきたセイヘンなどもある。

きたチヨウセンがカク(ヘイキ)をもつてけしからんというとき、そのズシキをおもいだすと、やつぱりよかつたのかもしれないとおもうことができるのではないか。つまり、(アメリカ)ガツシユウコクやオウシユウといふかねもちのくにが、カクヘイキをもつて(ピンボウでカクヘイキをもっているにはすくない)、ロウドウシヤカイキユウのきたチヨウセンがカクヘイキをもてば、もはやかねもちだけのイシで、セカイをうごかすことはできなくなる。つまり、いままでシホンカによるシハイだったセカイが、ロウドウシヤのイケンもふまえたセカイにすることができるようになるのである。つまりはヘイワになるのである。

かねもちらは、キトクケンエキをうしなうからつらいが、シホンカとロウドウシヤのいいキ

ンチヨウをもちつつ、セカイをウンエイしていくことができるのだ。かんがえかたシダイではわるくないだろう。

よんジュウサン

あるアーティストがサクヒンをだし、シイデイをおおいにうったとしよう。ヒヤクマンマイウレたとする。そのヒヨウカについてひとは、「アーティストのコセイが、よにみとめられた。」などという。しかし、ホントウに「コセイ」でうれたのだろうか。

わたしがおもうには、「コセイ」は二のつぎで、そのアーティストをオウエンしようというひとびとがタクサンできたことで、ヒヤクマンマイのうりあげをタッセイしたのだとおもう。もつといえ、オウエンするひとがヒヤクマンニンいるから、かれらにささえられて、つぎもいいサクヒンをかれはつくるはずである。

わたしは、キュウジュウネンダイにうれたアーティストのサクヒンをそうおもった。オウエンするひとがバクハツテキなうりあげをつくるのである。オウエンがいいオンガクをつくらせるのである。

よんジュウよん

ジシンがおこるとパンがうれる。それはわかる。ガス、スイドウがとまるカノウセイがあるし、リヨウリをつくれないかもしれないからだ。しかし、おおゆきがふつてもそういうケイコウがあるようだ。スイドウはとまらないだろうし、ガスもとまらないのになぜか。シヨクリヨウユソウのトラックがとまるカノウセイがあるからだろうか。ヤサイやニクがかえなくても、とりあえずアンシンというわけである。でもパンだけでいいのかとおもう。

よんジュウゴ

シイデイやデイブイデイ、ホン、そのタ ネットワークなどでキョウキユウされる「こと」を、わたしは「ギジ（ダイリ）タイケン」とよんでいる（●『よ』ヒヤクよんジュウよん）。「ダイリタイケン」ではあるけれども、それらはジヨウホウギジュツのハツタツで、ダイタイ、アツシユクされている。また、ナイヨウもムダなブンをなくして、アツシユクされたナイヨウである。だからここでは、これらを「アツシユクタイケン」とよぶ。

サイキンのこれらのトクチョウは、カカクがやすくなっていることである。もしくはそんなにはうれない。なぜかという、チュウコシジョウをふくめて、タクサンのしなみがあるからだ。キョウキュウがふえれば、カカクがテイカするというのはなしだ。だから、ものとしてではなく、チュウコシジョウにながせない「データ」としてうるケイコウがよくなっている。それなら、チュウコシジョウにながせないから、カカクがやすくないというわけである。

しかし、まだシイデイやデイブイデイ、ホンはつくられつづけている。だから、カカクのテイカはとまらないわけだ。トクにわたしがキグするのが、「アニメ」である。これは、ひとりがイチニチ、サンジュウマイのえをかいで、ゴセンヨンヒヤクニチ。つまりジュウゴネンかかって、イチジカンハンのアニメがカンセイする。それほどかすのおおいアツシユクタイケンなのである。このカカクがさがると、つくろうとするひとがへってくる。それをおぎなうためにコンピュータギジュツをつかって、ゴウセイしていくサクヒンがふえるだろう。そうすると、もはやアート（●サンジュウゴ）ではなくなる。まるばつさんとコンピュータのキョウサクですというようになる。だからそういうジョウキョウをさけたければ、オウエンすべきだともう。「アート」としてのアニメがハウフにあったジダイはおわりつつある

ということだ。ほかのアッシュクタイケンもそうだが、トクにアニメがケンチョだとおもう。
よんジュウロク

カガクというのは、エイゴでエスシーアイ、きるというセットウジのつくことばである。だから、ドンドンこまかくみていく。ケンビキョウができて、さらにブンシコウゾウ、またそれよりこまかいものをみるというように。

くすりはむかしはシヨクブツなどからつくっただろうが、いまは、カガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキとゲンブツをつくれれば、コキヤクにかつてもらえるわけである。しかし、ベツにそこまでこまかくしなくてもいいかもしれない。つまり、ヨブンがあるくすりみたいなものである。たとえば、シヨウガのなにかのセイブンが、いたみにきくが、そこまでこまかくしないで、シヨウガつかうといったぐあいである。カガクシキにもとづいてブンシをつくるやりかたはメンキョがヒツヨウだったりする。しかし、コーヒーをチヨウゴウするのはメンキョはヒツヨウない。そういうくさカガクがおもしろそうだとおもう。たべたらおもしろくなるくさも、ハツケンされるかもし

れない。

よんジュウなな

このまえ、マンネンヒツをデンシショッピングしていた。いまわたしがひらシャインだとしたら、シヨウシンしていくたびに、どういうそれをつかうかというぐあいにはらべた。モチロンこのみがあるから、すべてがタイシヨウにはならない。ひとそれぞれのものがたりがあるからだ。しかし、えらんでみると、アンガイかはずくない。シャチヨウなるまでひととおりしらべたが、ジュウドはそんなにない。イチヤクシヨクにみつつセンタクシがあればいいホウド。それでちよつとシヨウシンしたきになって（おそらく「かかりチヨウ」だ）、かつてみた。

しかし、うれしいのだが（シヨウシンがであろう）、あまりキノウテキとはいえなかった。ガイコクセイ（カイガイフィンといえるかもしれない。ちなみにわたしのキャリアパスでは「とりしまりやく」までカイガイだった。）のそれは、ほそいといわれるふでさきでもふとい。だからわたしにはつかいづらい。キャリアパスをまつとうするには、エイゴをつかえばよい

のかもしれないが、それもどうかとおもう。だからさらにセンタクシがせばまる。そうすると、えらんでいるのだが、ほとんどえらべないのである。また、シヨウシンしたら、まえにつかっていたものにもどせないようなきもする。それはコウカクだからである。そういうわけで、シユツセするとあとがなくなる。

それなら、あまりシヨウシンしなくてもよいのではとおもうようになった。いまのマンネンヒツ（シヨウシンまえ）にフマンがあるわけではない。よつぽどフマンやいきづまりカンがでてきたら、シヨウシンさせればいとおもうようになった。つまり、シヨウシンするカイキュウもシゲンだから、タイセツにして、だれかがいきづまったら、そのひとをシヨウシンさせればいということである。

ただ、がんばっているひと、ユウシユウなひとが、あまりセイセキのよくないひとにさきにシヨウシンされるといふのは、あまりおもしろくないだろうから（そういうシャカイシユギのシツパイをくりかえすのではノウがない）、カイキュウとキュウリヨウはベツにするわけである。だから、ユウシユウなひらシャインのまるクンはネンシユウハツピヤクマンエンだが、カチヨウになったバツさんはネンシユウがヨンヒヤクマンエンというぐあいである。シヨウシンについてかんがえてそうおもった。

よんジュウハチ

セカイのイジンはなしになると、ナポレオンをあげるひとがいるだろう。でもホントウにナポレオンがすぐれていたのか。おうやリーダーをシジするひとならナポレオンがすぐれていたというだろう。しかし、マッタンのひとをシジするたちばなら、フランスのコクミンがすぐれていたというであろう。

どうも、ニホンではサイキンミンシュユギのはなしがでてきたりはするが、キョウイクのゲンバでは、コクミンがすぐれていたではなく、ダイミョウ、こころざしのあるコジンがえらかったというはなしになっているようにおもう。ひよつとしたらニホンジンにはミンシュユギはむかないかもしれない。

よんジュウキユウ

シヨクジをとると、やがてウンコがでる。これはニンゲンにとつては、あたりまえのことかとおもう。むかしのヨーロッパでは、それをそとのドウロになげすてたという。しかし、

ゲンザイではゲスイドウにカイシユウしているのだろう。このようにチツジョからはイッテイのデイスオーダー（フチツジョ）がでるということは、しかたのないことだとおもう。ほかのレイでいえば「ごみ」である。それをリサイクルして、またチツジョにくみこんでいくというホウホウをいまはとっている。かわって、ロウドウのバメンではどうだろうか。やはり「ウンコ」とか「デイスオーダー」はでないであろうか。

あまりきかないが、「デイスオーダー（カイシヤからみれば）」ホンニンのモンダイではない、がたまつてドクリツ、リシヨクするひともいるだろう。たまに、しんでしまうひともいる。そういえば、シンソツのあるイッテイスウがナンネイナイにやめるといわれている。しんでしまうのはトクにモンダイだが、タイシヨクするひとをふくめて、「デイスオーダー」のシヨリがわるいともいえるのではないか。テンシヨクするうちに、「デイスオーダー」のシヨリをおぼえていたのかもしれないが、わたしもそのシヨリがうまくない。まあ、さげをのむなど、いいカイシヨウホウがあればいいとおもう。

オンガクイチエンのジダイ シドクバン
エイゾウ
ニセンジュウハチネンハチガツジュウよっか
ニセンニジュウニネンシチガツジュウシチニチ

iii toga db004-2



エイチテイタイプーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム
テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。